

# より魅力的なインターホンをめざして

## 産学連携 内容

インターホンはコミュニケーションやセキュリティの道具として家庭や職場などで様々な人に活用されています。インタフェースの機能性やユーザビリティの向上を目指し、利用者の年代や身体特性なども踏まえた、誰もが使いやすい魅力的なインターホン製品について研究中です。

## 研究・開発内容

アイホン

2011～2012年の研究では、戸建住宅用のインターホンの玄関子機にタッチパネルを搭載し、訪問者の目の前で画面が遷移していくようなプロトタイプを作りました。例えば通話中の画面では、居住者のアバタがイラストで表示されて応対したり、居住者の発話内容が文字に変換されて表示されたりします。高齢者や聴覚障がいをもつ訪問者にも役立つユニバーサルデザインです。大学でアイデア創出や実験用アプリ開発を担当し、一部の成果は商品化に繋がりました。



## 産学連携のきっかけ

### 企業の声

2005年に国際会議に出展したアイホンの展示ブースで川澄先生と出会ったのがきっかけです。先生はもともと自動車を中心とした工業製品の感性研究に取り組んでいましたが、インターホンももっと感性品質を高められるという話から、新しい研究が始まりました。社内の様々な部署から集まってプロジェクトチームを結成し研究・開発を進めています。

## 教員紹介



名城大学 理工学部情報工学科  
感性デザイン研究室  
川澄 未来子 准教授

製品や商品に対する人間の感性やユーザビリティを定量的に分析した結果をものづくりに活かす研究を行っています。利用者の多様な特性を踏まえ、人と人、人と物との円滑なコミュニケーションに役立つことを目指しています。

## 産学連携でよかったこと

### 企業の声

「人が使いやすい」ということに対してロジカルに取り組むことができます。研究室で試行錯誤を行ってもらい、川澄先生の協力で研究成果を具現化・商品化することに繋がっていきます。また、学生さんは情報処理能力やデータ処理能力に長け、発想が豊かです。研究成果は、毎年ヒューマンインタフェース学会で展示発表しており、好評を博しています。